

成績評価 (fGPA) と実習評価との関連

新沼英明, 中俣友子, 原子はるみ
松田賢一, 能城ひろみ

The relationships between fGPA and the performance of child care trainees.

Hideaki NIINUMA, Tomoko NAKAMATA, Harumi HARAKO,
Ken-ichi MATSUDA and Hiromi NOSHIRO

1. はじめに

2014年8月の子ども・子育て関連3法（子ども・子育て支援法、認定こども園法並びに児童福祉法の一部改正等関係法律の整備法）の公布を受けて、2015年度から実施されている「子ども・子育て支援新制度」では、認定こども園制度の改善、地域型保育給付の新設（小規模保育等への財政支援等）、地域の実情に応じた子育て支援の充実の3つを主なポイントとしている。これらはいずれも保育の「量的拡充」を目指したもので、特に大都市部の待機児童の解消がわが国における保育制度の喫緊の課題であることを示している（内閣府、2015, p12）。

一方、保育サービスを拡充することに伴い、保育の主たる担い手である保育士確保の課題が生じることは必然である。厚生労働省が2015年に公表した「保育士確保プラン」では、2017年度末までに新たに必要となる保育士数を6.9万人と推計している（厚生労働省、2015, p2）。保育士養成校は、これら社会の期待に応じる質の高い保育士を輩出していくことが使命である。翻って「保育士養成の質」を担保してこそ、真に質の高い保育士を輩出することが可能となる。

言うまでも無く、保育士養成校における教育は、養成校での講義・演習に加えて、保育現場における実習が大きな柱となる。しかし、養成校の教員による成績評価と保育現場における指導者の実習評価の関係は十分に明らかになっていない。実習評価がすなわち保育士としての素養の高さであるとは言い切れないが、養成校における成績評価と保育現場の実習評価との関連を概観することで、養成教育の課題を見出すことが出来るのではないかと考えたのが本稿の着想に至った端緒である。

2. 研究目的

函館短期大学では学生の成績評価に機能的GPA (functional GPA, 以下fGPA) を導入している（猪上, 2015, p.61; 猪上・能城, 2015, p69）。一方、保育士養成の核となる保育実習にあつては、全国保育士養成協議会による「保育実習のミニマムスタンダード」（全国保育士養成協議会, 2007, p122）を参考に、本学独自の「評価の観点」を加えた評価票を作成し、実習園に表1に示す各項目について5段階の評価を依頼しているところである。

保育実習Ⅰはいわゆる観察型の実習であり、「実習態度」5項目のほか、「知識・理解」に関する11項目の計16項目での評価である。一方、保育実習Ⅱは参加型の実習に位置づけられ、保育実習Ⅰと共通する「実習態度」5項目と、「知識・技能」に関する7項目の計12項目による評価になっている。なお、保育実習Ⅰの評価の観点を付表1に、保育実習Ⅱの評価の観点を付表2に示した。

本稿では、学内における評価 (fGPA) と実習先における評価を比較検討し、保育実習に向けた指導の課題を明らかにするとともに、実習を核としたカリキュラム編成のあり方について検証した結果を報告する。なお、分析にあたって、全体のfGPAと実習評価の比較に加え、各科目を「講義」と「演習」に分けて分析を行った。

表 1 保育実習の評価項目

保育実習Ⅰ(保育所)評価項目		保育実習Ⅱ評価項目	
	意欲・積極性		意欲・積極性
実 習 態 度	責任感	実 習 態 度	責任感
	探求心		探求心
	協調性		協調性
	勤務態度		勤務態度
施設の理解		子どもの実態把握・発達理解	
	一日の流れ		一人ひとりの子どもへの対応
	乳幼児の発達の理解	知 識 ・ 技 能	保育技術の展開
知 識 ・ 理 解	保育課程・指導計画の理解		指導計画案と準備・教材研究
	保育技術の習得		実習日誌の記録
	チームワークの理解	保育士の役割の理解	
	家庭・地域社会との連携		自己課題の明確化
	子どもとのかかわり		
	保育士の倫理観		
	健康・安全への配慮		
	適切な実習記録		

3. 研究方法

函館短期大学保育学科に平成26年度に入学した学生のうち、1年次後期に保育実習Ⅰを履修した学生(63名)と2年次の10月までに保育実習Ⅱを履修した学生(45名)の2年次前期までの学内における成績評価と、保育実習Ⅰ(保育所)並びに保育実習Ⅱの実習評価を比較した。保育実習Ⅰ(保育所)は必修であり、保育実習Ⅱは選択必修である。即ち、保育実習Ⅰを履修した学生が63名で保育実習Ⅱを履修した学生が45名であるのは保育実習Ⅲ(社会福祉施設)を履修した学生を分析対象から除外したためである。

なお、保育実習Ⅰの評価は本稿の分析対象にした保育所による評価と社会福祉施設における評価を総合してなされるものであるため(函館短期大学, 2014, p58), 保育所の評価がすなわち「保育実習Ⅰ」の評価ではないことを付言する。

4. 結果

初めに、全体のfGPAが保育実習ⅠとⅡの評価全体に影響を与えているかを検討するため、fGPAを平均以上(上位群)と平均以下(下位群)に分け独立変数とし、保育実習Ⅰ・Ⅱをそれぞれ従属変数とする1要因2水準の分散分析を行った。その結果、fGPAの下位群よりも上位群の方が保育実習Ⅰ・Ⅱともに実習評価が高かった。また、講義科目のfGPAおよび演習科目のfGPAについても同様の分析を行い、fGPAの下位群よりも上位群の方が保育実習Ⅰ・Ⅱともに実習評価が高かった。

次に、実習評価の大項目である「実習態度」「知識・理解(技能)」と「実習記録」について、全体のfGPA、講義科目のfGPA、演習科目のfGPAをそれぞれ上位・下位群に分けて分散分析を行った。その結果、全体、講義科目、演習科目のfGPAの下位群よりも上位群の方が、「実習態度」

表2 成績評価別の実習評価の平均値とF値

		全体			講義科目			演習科目		
実習 I (N=63)	実習態度	19.52			19.51			19.56		
	(25点)	16.77	9.39	**	16.57	10.88	**	16.62	10.91	**
	知識・理解	39.42			39.23			39.59		
	(55点)	35.20	6.91	*	35.14	6.35	*	34.86	8.86	**
	実習記録	3.79			3.74			3.82		
(5点)	3.13	8.38	**	3.14	6.82	*	3.07	11.61	**	
全体	58.94			58.74			59.15			
(80点)	51.97	8.50	**	51.71	8.56	**	51.48	10.53	**	
実習 II (N=45)	実習態度	19.96			19.44			19.88		
	(25点)	15.95	14.61	***	16.60	59.62	*	15.84	14.69	***
	知識・技能	26.56			25.88			26.38		
	(35点)	21.60	15.49	***	22.45	6.24	*	21.58	14	**
	実習記録	4.00			3.92			4.00		
(5点)	3.15	11.30	**	3.25	6.39	*	3.11	12.69	**	
全体	46.52			45.32			46.27			
(60点)	37.55	16.25	***	39.05	6.66	*	37.42	15.4	***	

上段:fGPA 平均値以上, 下段:fGPA 平均値以下 * $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

fGPA の算出 (猪上, 2015, p.67)

functional GP(fGP)=(TS-55)/10

functional GPA(fGPA)=

[(TS-55) /10] ×単位数} の合計

単位数の合計

TS:成績素点

「知識・理解 (技能)」と「実習記録」についても実習評価が高かった。成績評価別の実習評価の平均値, およびF値を表2に示した。

5. 考察

今回の分析の結果は以下4つに集約される。

- ① 本学における成績評価が高い学生は, 保育現場における実習評価が相対的に高い傾向にある。
- ② 講義, 演習の別に関わらず, それらの成績の

良い学生は保育現場における実習評価についても, 高評価を得られる傾向にある。

- ③ 成績評価が良い学生は, 実習評価の「知識・理解 (技能)」ばかりでなく, 「実習態度」でも良い評価が得られる傾向にある。
- ④ すなわち, 学生は本学のカリキュラムに十分に力を注いで誠実に取り組み, 一定の評価を得ることが, 実習でよい成果が得られるポイントと考えられる。

本分析により、学内の成績評価が高い学生は、実習でも態度、知識・理解（技能）ともに高い傾向が示された。これは日常の学修に取り組む意欲が高いほど、実習に臨む意欲、積極性に結びつき、また、より多くのことを学ぼうとする探究心の高まりとも相まって、結果として実習評価を押し上げているとも考えられる。翻って、普段の学修に取り組む状況が不良な学生は、実習園でも評価されず、実習後の学修意欲の減退等に繋がりがねないことも懸念される。

これらのことから、本学における課題として、以下3点が挙げられる。

- ① 函館短期大学における成績評価と実習園による実習評価には一定の関係性が見られたため、引き続き成績評価の厳格化、適正化について研究していくことが肝要である。
- ② いずれの分析項目においても、成績評価上位群と下位群の実習評価に大きな乖離がある。すなわち、実習後あるいは卒業時における保育士としての資質に二極化現象が起こることも懸念される。そのため、実習後のフォローアップにも注力する必要がある。
- ③ 成績評価と「実習態度」との関連は興味深い。すなわち、普段の学修への取り組みが実習生としての意欲・積極性にも繋がることに鑑み、本学教員は単に学年末に「得点」のみで評価するのではなく、学修への取り組み過程（意欲、態度、積極性等）における指導を丁寧に行うことが大切である。そのことによって学生が実習に臨む際の望ましい「実習態度」を形成することに繋がると思われる。

6. まとめ

大学全入の時代となり、入学生の多様化が指摘されて久しい。入学生の多様化を、単に学力の高低ではなく、学修意欲も含めた概念と捉えるならば、大学は定められた教授内容を教えるだけではなく、学生一人ひとりの「伴走者」としての役割

が求められる時代に変化しつつあるとも言えるだろう。前述のように、今後の「子ども・子育て支援社会」における国民の要請に応えるためには、一定数の保育士をコンスタントに輩出していかなければならない。しかしながら、高等教育機関たる短期大学では、関係法令を遵守することはもとより、大学のディプロマ・ポリシーに則った質の高い教育を施していくこともまた、社会的責務である。両者のバランスをとって行くためには、常に現状のカリキュラム編成、教授内容を精査、検討していくことが求められよう。そのため、FD/SDを含めた教職連携を推進し、学生の実情に応じた対応を今後も検討していく必要がある。

なお、本稿に用いた実習園の評価は、本学において「実習評価の観点」は示しているものの、実習指導担当者（保育士）の経験年数や園の指導方針によって偏りがあることも考えられる。そのため、データを蓄積し、園ごとの数値を補正した結果、同様の結果が得られるかどうかは、今後も分析を行い、検証する必要がある。

引用・参考文献

- 1) 猪上徳雄 (2015). 函館短期大学の成績評価とfGPA制度の導入 函館短期大学紀要第41号, 61-68.
- 2) 猪上徳雄・能城ひろみ (2015). 機能するGPA (fGPA) 算出プログラムの作成とその活用 函館短期大学紀要第41号, 69-74.
- 3) 厚生労働省 (2015). 保育士確保プラン 厚生労働省雇用均等・児童家庭局ホームページ掲載 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000070943.html>, 1-9, 2015, 1, 15.
- 4) 内閣府 (2015). 子ども・子育て支援新制度について 内閣府子ども・子育て本部ホームページ掲載 <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/index.html>, 1-114, 2015, 1, 15.
- 5) 函館短期大学 (2014). 函館短期大学保育学科講義要項2014, 58.

付表1 保育実習Ⅰ（保育所）評価の観点

	評価項目	評価の観点	評価				
			とても 優れて いる	やや 優れて いる	概ね 出来て いる	やや 努力を要 する	全く 努力が見 られない
実 習 態 度	1. 意欲・積極性	◆ 主体的に実習に臨み、様々なことを学び取ろうとしている。 ◆ 子どもの遊びの中に積極的に加わり、乳幼児理解の力量を向上しようとしている。	5	4	3	2	1
	2. 責任感	◆ 指示された事項について、誠実に取り組もうとしている。 ◆ 課題や実習記録を期日までに整理し、遅滞なく提出しようとしている。	5	4	3	2	1
	3. 探究心	◆ 疑問な事項やわからない事項について、自ら調べようとしている。 ◆ わからない事項について、積極的に質問し、解決しようとしている。	5	4	3	2	1
	4. 協調性	◆ 子ども・職員・保護者と、適切なコミュニケーションを図ろうとしている。 ◆ 周囲の人々に感謝し、和やかな関係を保とうとしている。	5	4	3	2	1
	5. 勤務態度	◆ あいさつや言葉づかい、身だしなみ、礼儀等に気を付けている。 ◆ 節度や良識があり、保育者としての自覚をもった行動を取ろうとしている。	5	4	3	2	1
知 識 ・ 技 能	1. 施設の理解	◇ 実習する保育所の概要を理解している。 ◇ 実習する保育所の設立理念と保育の目標を理解している。	5	4	3	2	1
	2. 一日の流れの理解	◇ 保育所の生活に主体的に参加し、一日の流れを理解している。 ◇ 保育に参加し、保育所の状況を理解している。	5	4	3	2	1
	3. 乳幼児の発達の理解	◇ 観察や関わりを通し、乳幼児の遊びや生活の実態を理解している。 ◇ 遊びの仲間に加わるなど、子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達を理解している。	5	4	3	2	1
	4. 保育課程・指導計画の理解	◇ 保育課程の意義を理解している。 ◇ 保育課程に基づく指導計画のあり方を理解している。	5	4	3	2	1
	5. 保育技術の習得	◆ 保育の実践を通して、保育の技術を学ぼうとしている。 ◆ 体験した保育の一部分を生かして、子どもの援助を行おうとしている。	5	4	3	2	1
	6. チームワークの理解	◇ 職員の役割分担を理解している。 ◇ 保育士のチームワークについて、具体的な姿を理解している。	5	4	3	2	1
	7. 家庭・地域社会との連携	◇ 保育所と家庭との連絡ノートやおたより等の実際に触れ、その役割について理解している。 ◆ 登所、降所の際の保育士と保護者との関わりを通して、家庭とのコミュニケーションの取り方を学ぼうとしている。 ◇ 実習保育所における子育て支援事業の実態について理解している。	5	4	3	2	1
	8. 子どものかかわり	◆ 日常の保育士と子どもとの関わりを通して、子どもにとってより良い生活や保育のあり方を学ぼうとしている。 ◆ 子どもの最善の利益を追求する保育所全体の姿勢を学ぼうとしている。	5	4	3	2	1
	9. 保育士の倫理観	◆ 守秘義務がどのように遵守されているかを具体的に学ぼうとしている。 ◆ 個人のプライバシーがどのように保護されているかを具体的に学ぼうとしている。	5	4	3	2	1
	10. 健康・安全への配慮	◇ 保育所全体の安全に対する仕組みと個々の配慮を理解している。 ◇ 保育所全体の衛生に対する仕組みと個々の配慮を理解している。 ◇ 一人ひとりの子どもに対する安全の配慮を理解している。 ◇ 一人ひとりの子どもに対する衛生の配慮を理解している。	5	4	3	2	1
	11. 適切な実習記録	◇ 適正な観察を行い、要点をとらえて記録している。 ◆ 誤字や脱字に気を付けて、丁寧に記述しようとしている。	5	4	3	2	1

付表2 保育実習Ⅱ 評価の観点

	評価項目	評価の観点	評価				
			とても 優れて いる	やや 優れて いる	概ね 出来て いる	やや 努力を要 する	全く 努力が見 られない
実 習 態 度	意欲・積極性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主体的に実習に臨み、様々なことを学び取ろうとしている。 ◆ 子どもの遊びの中に積極的に加わり、乳幼児理解の力量を向上しようとしている。 	5	4	3	2	1
	責任感	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 指示された事項について、誠実に取り組もうとしている。 ◆ 課題や実習記録を期日までに整理し、遅滞なく提出しようとしている。 	5	4	3	2	1
	探究心	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 疑問な事項やわからない事項について、自ら調べようとしている。 ◆ わからない事項について、積極的に質問し、解決しようとしている。 	5	4	3	2	1
	協調性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子ども・職員・保護者と、適切なコミュニケーションを図ろうとしている。 ◆ 周囲の人々に感謝し、和やかな関係を保とうとしている。 	5	4	3	2	1
	勤務態度	<ul style="list-style-type: none"> ◆ あいさつや言葉づかい、身だしなみ、礼儀等に気をつけている。 ◆ 節度や良識があり、保育者としての自覚をもった行動を取ろうとしている。 	5	4	3	2	1
知 識 ・ 技 能	子どもの実態把握・発達理解	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 乳幼児の発達段階を理解しており、適切な対応ができる。 ◇ 子どもの実態を把握し、適切ななかかわりを持つことができる。 	5	4	3	2	1
	一人ひとりの子どもへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 延長保育をはじめとする多様な保育サービスを体験し、その必要性を理解している。 ◆ 子どもの個人差に応じた対応を学ぼうとしている。 ◆ 特別な配慮を要する子どもへの理解を深め、その対応について学ぼうとしている。 	5	4	3	2	1
	保育技術の展開	<ul style="list-style-type: none"> ◇ デイリープログラム（日課）を把握し、保育全般に積極的に参加している。 ◆ 保育士の職務を理解し、保育技術を進んで習得しようとしている。 	5	4	3	2	1
	指導計画案と準備・教材研究	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育の一部分を担当する指導計画を立案する。 ◆ 子どもの実態に応じた準備をし、実践する。 ◆ 一日の保育計画を立案し、それを実践しようとする。 	5	4	3	2	1
	実習日誌の記録	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 適正な観察を行い、要点をとらえて記録している。 ◆ 誤字や脱字に気を付けて、丁寧に記述しようとしている。 	5	4	3	2	1
	保育士の役割の理解	<p>《保護者とのなかかわり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 連絡ノート、おたより等による家庭との連携の仕方を理解している。 ◆ 日常の保護者へのあいさつや言葉かけ等を通して、適切ななかかわり方を学ぼうとしている。 <p>《地域社会との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 子育ての不安や悩みを知り、保育所の役割について理解している。 ◆ 特別保育（延長保育等）や子育て支援事業（子育てサロン等）について関心を持ち、地域の保育ニーズを理解しようとしている。 ◆ 地域の社会資源（小学校・図書館・高齢者施設等）との連携について学ぼうとしている。 <p>《子どもの最善の利益》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育所の理念、目標等と結び付けて、子どもに配慮しなければならないことを理解している。 ◇ 保育士の援助の仕方や対応から、子どもの側に立つ姿勢をとらえている。 ◆ 児童虐待への防止についての対応を学ぼうとしている。 <p>《保育士の職業倫理》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 守秘義務の遵守について、具体的に理解している。 ◇ 保育士の職業倫理について、具体的に理解している。 <p>《チームワークの実践》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育士の役割分担について、具体的に理解している。 ◆ 保育士のチームワークについて、実践的に学ぼうとしている。 	5	4	3	2	1
	自己課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育士に必要な資質について理解している。 ◇ 実習を総括し、実習を通して得た問題や課題を把握している。 ◇ 今後の自己課題を明確に持っている。 ◆ 自己課題を実現させていく具体的方法を考えようとしている。 	5	4	3	2	1